

01 HTMLの基本ルール

ここからはHTMLの書き方を見ていきます。HTMLの書き方には、基本的なルールがあります。HTMLのバージョンを指定する「DOCTYPE宣言」のほか、意味づけのための「要素」(タグ)を記述するのもHTMLの特徴です。

THEME テーマ

- ▶ HTMLの基本的な書き方
- ▶ 要素とタグの違い
- ▶ HTML内のタグの構造

▶ HTMLの基本とバージョン

テキスト文書をHTMLにするには、まず1行目に**DOCTYPE宣言**を記述してHTMLのバージョンを指定して、「HTML5」、「HTML 4.01」、「XHTML 1.0」のいずれかを記述します **① 図1**。

ここでは、今後主流になるHTML5を中心に説明します。

HTML5では、DOCTYPE宣言を「<!DOCTYPE html>」と記述します。DOCTYPE宣言のあとは、head要素とbody要素に、それぞれ必要な内容を意味づけ(マークアップ)していきます。

Word DOCTYPE宣言

HTML文書が、どのバージョンでどんな仕様に従って作られているのかをブラウザに伝えるための宣言。214ページ、Lesson11-01も参照。

① POINT

HTML 4.01とXHTML 1.0には、「Strict」、「Transitional」と呼ばれる細かい定義もあります。Strictは厳密な仕様で、非推奨の要素や属性は使用できないほか、要素の配置にも厳しい制限があります。Transitionalは、Strictに比べてゆるやかな仕様で、Strictで非推奨の要素や属性を使うことができます。

図1 DOCTYPE宣言の例

●HTML5のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE html>
```

●HTML4.01のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
```

●XHTML1.0のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
```